

事務事業評価表

○基礎情報

課名		警備第一・二課	作成責任者	常勤職員		常勤職員以外			時間外勤務時間	
施策目標	41	消防業務を効果的・効率的に実施する	武田 芳亮 鯨井 久生	管理職	左記以外	再任用短時間職員	臨時職員	非常勤嘱託職員	総時間	一人あたり月平均
				18 人	167 人	0 人	0 人	0 人	21,482 時間	10.7 時間

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	3次実施計画の 現状値	目標値 (30年度)	実績値			
			26年度	27年度	28年度	29年度
救急現場到着平均時間	7.4分	7.2分	7.4分	7.4分	7.2分	7.4分
医療機関搬送平均時間	29.6分	30.0分	29.6分	29.1分	28.5分	28.4分
0	0.0%	0				

(評価の見方)

- ・ S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった
- ・ A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった
- ・ B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める
- ・ C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める
- ・ D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない
- ・ E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない
- ・ Z 未着手事業(中核市関連のものを含む)
- ・ 実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった
(実施計画期間中で当該年度は実績のないものを含む)

2 事業実績(平成29年度)

No.	事務事業名 (第3次実施計画)	事務事業の目的・目指すべき成果・効果 何を・誰を どうやって働きか どうしたいか(生ま (対象) け(手段・方法) れる成果・効果)	Plan / Do								総合評価 (Check)			Action	
			事業性質	従事者数	会計区分	H28予算(円) H28決算(円)	H29予算(円) H29決算(円)	事務事業の指標名	H29目標値	H29実績値	評価	取組時間	見直し検討可能性	業棚選定	休・廃止
1	火災・救助業務	市民の生命、身体、財産を守るため、災害に迅速対応し、災害被害を軽減する。	定例 定型	75.11	一般	0 0	0 0	訓練実施回数	60回	70回	S	変動なし	●	●	
2	救急業務	円滑な救急活動による市民の生命及び身体の保護を図る。	定例 定型	46.35	一般	0 0	0 0	救急現場到着平均時間 (医療機関搬送平均時間)	7.2分 (30分)	7.4分 (28.4分)	S	変動なし	●		
3	立入検査業務	防火管理体制の向上を図り、市民が安心して生活できる環境を目指す。	定例 定型	28.00	一般	0 0	0 0	立入検査件数	492回	513回	S	変動なし			
4	防災・救命普及啓発業務	消防防災フェスティバルや防災アカデミー等、市民へ防災知識の向上及び救命講習の普及啓発を図る。	定例 定型	12.28	一般	0 0	0 0	実施回数	35回	43回	S	増加			
5	災害応急対策活動	-	定例 定型	10.56	一般	0 0	0 0								
6	庁内共通事務	-	定例 定型	12.69	一般	0 0	0 0								
合計				185.00		H29総予算(円) H29総決算(円)		0 0							

3 実施計画事業の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check)／今後の展望(Action)	
<p>警備第一・二課の平成29年度における事務事業数は「災害応急対策活動」「庁内共通事務」を除き4事業である。</p> <p>指標の達成度及び事業の実施効果から見た各事業の評価としては「S」4事業となっている。</p> <p>各事業のうち救急業務については超高齢社会が進む中、全国的にも救急出動件数は増加傾向にあり、これに伴い救急現場到着平均時間は延びる傾向にあるが、平成27年中の神奈川県内救急現場到着平均時間8.3分と比較すると当市の7.4分は県内の平均時間を下回っている。</p> <p>また、平成27年中の神奈川県内における医療機関に搬送するまでの平均所要時間は39.7分であり、本市の平均時間28.4分は、県内でもトップクラスの搬送時間となっている。</p> <p>増大する救急需要への対応や救急救命士の処置拡大等、質の高い救急サービスを維持していくために、引き続き、消防隊との連携強化を一層強めることを主眼とし、救急支援活動等の訓練を継続して実施する必要がある。</p> <p>警備第一・二課の各事業は、各種災害から市民の生命、身体及び財産を守り、災害による被害の軽減を図ることが共通目的であり、事業成果を判定しづらい面があるが、今後も継続してあらゆる災害に対応できるよう、高度な専門知識と活動技術を習得していくことが求められている。</p> <p>こうした中で、平素鍛えた消防救助技術の成果を発表する消防救助技術指導会において、日頃の成果を遺憾なく発揮し、第46回全国消防救助技術大会に出場し入賞を果たすことができ、消防隊員が高度な技術を養っていることを証明することができた。今後も各種訓練を継続し、技術の向上に努める必要がある。</p> <p>職員の時間外勤務に着目すると、前年度の総時間23,268時間に比べ実績は21,482時間、一人当たりに換算すると、前年度の月平均11時間に比べ実績は10.7時間と僅かであるが縮減できた。警備第一・二課の時間外勤務は災害の発生状況によって変動するため、時間外勤務から事業に対する費用対効果を判断することは難しいが、各職員が効率的に事務を進める意識は定着している。</p>	

4 見直し検討可能性にチェックの入った事業のうち休・廃止検討事業

No.	事務事業名	休・廃止検討の理由
-	-	-
-	-	-

5 働きかたの見直しにおける取組結果(28-29年度の2か年の取り組みの結果、得られた生産性向上などの成果)

No.	事務事業名	取り組みの結果
2	救急業務	救急隊と消防隊との連携強化、及び迅速な現場活動を目的とする統一的な活動マニュアルの作成に着手し、訓練を実施した。この訓練により各隊員がとるべき行動を把握し、他の隊員との連携・協力が実施されたことから、医療機関搬送平均時間が、平成27年中の29.1分から、28年は28.5分、29年は28.4分と短縮しており、訓練の成果がみられた。現在、本格運用に向け、活動マニュアルの検証、修正を行っている。
-	-	-